

2010年3月9日

エコマジネーション・GEが考える環境と経営

バンクーバー五輪、医療・環境面で支援 (GE)

史上最多の国・地域が参加し、大きな盛り上がりを見せた第21回冬季五輪バンクーバー大会、そして続いて開催されるパラリンピック。今回の大会は「持続可能性」がキーワードとなっており、環境への配慮を前提として、経済面や運営面でいかに成功を納めるかに多くの注目が集まりました。GEは「エコマジネーション」の一環として発光ダイオード(LED)光源やアイススケートリンクの氷を製氷・維持するプラントを本大会に提供しました。今回はこうした環境面での貢献と並行し、「ヘルシーマジネーション」として選手が最高のパフォーマンスを発揮する上で欠かせない医療サービスを提供したことについてご紹介します。

■より医療へのアクセスを拡大

今回のオリンピックおよびパラリンピックは、GEが従来から企業目標の1つとして掲げている「医療アクセスの拡大」を、具体化した形で見る事ができるイベントです。GEは「エコマジネーション」という環境面での取り組みと並行して、「ヘルシーマジネーション」という、誰もが健やかな生活を送ることのできる未来を実現し、同時に医療従事者にも成功をもたらそうという取り組みを掲げています。

その具体的な実行目標のひとつが「医療アクセスの拡大」です。これは、情報ネットワークなどを活用して、遠くのある患者でも、専門医師による的確な診断がすばやく受けられる環境の実現を目指すものです。

GEは今回のオリンピックおよびパラリンピックで、医療ITソリューションや移動可能なトラクター・トレーラー型病院(MMU: Mobile Medical Unit)、また64スライスCT、超音波デジタル診断装置といった最先端の設備を提供します。これらによって、競技会場の各場所で迅速かつ的確な医療行為を行えるようになるのです。

■遠隔地をITで結んで迅速な診断を提供

今回GEが大会会場に提供している中でも要となるのが、医療ITソリューション「Centricity(r) Radiology-IW」です。これはX線やMRI、CTといった医療画像や各種の情報を電子データとして取得・管理し、さらに各種診断装置や医療施設同士をネットワークでつないで、どこでも参照できるようにするものです。

このソリューションは、ウェブベースのRIS(放射線情報システム)「Centricity RIS-IC」とPACS(医用画像保管・電送システム)、同じくウェブベースのレポートングシステム「Precision Reporting」から構成します。この統合システムは「電子交易拠点」ともいべき役割を果たし、病院

情報システム(HIS:Hospital Information System)や電子カルテシステム(EMR:Electronic Medical Records Systems)、業務管理システムといったほかのデジタルシステムと連動して活用されます。

今大会ではバンクーバー総合病院に設置され、ネットワークによってウイスラー総合病院、および GE が今回提供する移動式病院(MMU)の間を結んでいます。同ソリューションの導入はカナダで初となり、冬季オリンピック大会で公式採用されるのも初めてとなります。

このシステムを活用すれば、医療スタッフが他の病院にいようと、患者の情報にすぐにアクセスでき、迅速に診断、治療、経過観察を行えるようになります。特に競技大会では、骨折などが起こる可能性も、ある程度避けられません。このシステムを運用することによって、診断を受ける必要が出た選手は、移動の負担を軽減でき、さらにすぐ競技に復帰することも可能になります

以上